

# 近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.73  
2023年1月

## 目 次

新年のご挨拶.....	2
	神戸医療センター 本田 富得
提言.....	3
	和歌山病院 井上 敦介
薬剤部紹介.....	4
	大阪刀根山医療センター 片岡 綾子
2023 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	7
	奈良医療センター 細田 敦規
近畿国立病院薬剤師会学術講演会に参加して.....	10
	南和歌山医療センター 上田 浩人
2022 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム参加報告.....	11
	神戸医療センター 高橋 弘季
趣味のページ.....	12
	京都医療センター 佐々木 陽子
編集後記.....	13

## 新年のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長  
神戸医療センター 本田富得

新年明けましておめでとうございます。

近畿国立病院薬剤師会会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より本会の事業にご理解とご協力を頂きまして、厚く御礼申し上げます。どうぞ本年もよろしく願いいたします。

昨年は、診療報酬改定や2021年より続いている後発医薬品を中心とした医薬品の供給不足と会員の皆様におかれましては大変苦慮されたことと思います。本会におきましては、私が会長を就任して1年が経ちましたが、昨年もコロナ禍の影響を受け対面での活動を行えず、WEBでの活動を行ってまいりました。今年に入ってもコロナ感染の終息する気配もなく、新たな変異株による感染の報道とまだまだ予断を許さない状況です。しかし、感染対策の行動規制につきましては、3年ぶりに新型コロナウイルスによる行動制限がない年末年始を迎え、また昨年開催されました国立病院総合医学会におきましても集合で開催されるなど「With コロナ」へ向けた生活へ移行しつつあります。そのような状況も踏まえ本会におきましても、3年ぶりに総会・学術講演会を集合形式にて、大阪市中央公会堂で開催することとなりました。

さて、本年度の事業方針についてですが、昨年度に引き続き「質」を高め実務に生かせるような内容で、感染状況や行政等の対応状況を踏まえつつ基本集合形式で事業を進めていきたいと考えています。また、委員会活動におきましては、昨年同様に各委員会が、勉強会や症例検討会などWEBを活用した企画を計画しておりますので、より多くの会員の先生方に参加していただき、日頃の業務に少しでも貢献できるよう役員ともども知恵を出し合い活発な会となるよう進めていきたいと思っております。

最後になりましたが、本年が会員の皆様方にとって実り多い一年となりますよう祈念し、今後とも本会事業にご理解とご支援賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。

## 提言

和歌山病院 井上 敦介

新年あけましておめでとうございます。昨年4月に和歌山病院に赴任し早いもので初めての  
お正月を迎えることとなりました。私は病院薬剤師としてこれまで7回の転勤によって複数の病  
院にて勤務し、その度に職場や私生活の環境が変わってきました。その経験から、これまで実  
践してきたことを提言したいと思います。

そもそも転勤には変化がつきものであり、新たな対人関係の形成はもちろんのこと、薬剤業  
務においては採用薬品や調剤機器、調剤内規を例にみてもその違いを感じると思います。こ  
れらの変化は少なからず心理的なストレスとなることもあります。視点を換えれば、一旦立ち  
止まって物事を考えてみる良い契機ともなります。まずは現状をしっかりと把握し、それを受け  
入れ実践してみる。次にそれらを分析し、非効率な運用や改善すべき部分がないか疑問  
に思い考えること。最後に業務改善を実践し、その効果を検証しより良い運用に繋げる。こ  
れら一連のステップは、「守破離」の考え方に相通ずるものと私は考えています。すなわち、ま  
ずは真似をすることで基礎・基本を固める第一段階「守」、経験を重ね基本を守りつつも応用・  
改善を加えてみる第二段階「破」、それまでの過程にとらわれず新しい境地に達する第三段階  
「離」。この中で第一段階「守」が最も大事な要素となりますが、これは何事においてもまずは  
基本が肝心要であるということです。「学ぶ」の語源は真似ると同じであり、語源の通り、「真似  
る」は学ぶために非常に大事な工程となります(余談ですが、1歳を迎えた私の愛娘は両親の  
言葉を真似てか、喃語から一語文を話せるようになりつつあり、子供ながらに「守」を実践して  
いるのかもしれませんが)。世の中には全くのオリジナリティはあり得ないため、革新的なアイディ  
アを思いついたとしても、それはこれまでに自分が見聞きしたものの集大成なのです。だから  
こそたくさん「守」を行い、「破」「離」と進んでいくことは、新しい境地という成功に近付くため  
の第一歩になると思います。そしてこの「守破離」の仕事プロセスは、薬剤部内だけの業務に  
留まらず病棟業務やチーム医療等でも生かすことができます。多職種が係わる場合には円滑  
なコミュニケーション能力も必要不可欠となり、成功への難易度は更に上がります。かくいう私  
もこれまで成功だけでなく少なからず失敗も経験してきましたので、特に若い薬剤師の皆さん  
は何事にも失敗を恐れず、まずは行動することから始めてほしいと思います。

「思った通りにはならないがやった通りにはなる」行動することでそこから多くを学び、時には  
変化を楽しんで頑張っていきましょう。

## 薬剤部紹介



### 【病院概要】

大阪刀根山医療センターは、大阪モノレール線と阪急電車宝塚本線が接続する蛍池駅から、徒歩5分のところに位置しています。小高い丘の上にあるため、病棟からはモノレール、阪急電車、飛行機の離発着を見ることができます。昨年までは、甲子園球場の2.5倍という巨大な敷地を、ヤギ2頭が草刈りをしてくれていました。

当院は、1917年に日本初の公立結核療養所として開所した100年以上の歴史をもつ呼吸器疾患全般、神経筋疾患、筋ジストロフィー、慢性関節リウマチ、脊椎・関節疾患の専門病院です。2019年に結核病棟を閉鎖し、病院名も刀根山病院から大阪刀根山医療センターへ変更となりました。2020年には、免疫アレルギー内科医が加わってリウマチ診療・膠原病に対する診療が充実し、2021年には漢方医による漢方ペインクリニック内科外来が開設となりました。また、新型コロナウイルスの診療にも取り組んでおり、2023年1月から肺がんセンターを稼働する予定です。

## 【薬剤部概要】

薬剤部は、薬剤部長、副薬剤部長、主任 5 名（調剤主任、薬務主任、病棟主任および治験主任）薬剤師 11 名の 18 名（育児休暇中1名）で構成されています。

当院では、ICT、AST、NST、緩和ケアチーム、化学療法サポートチームおよび骨粗しょう症チームなどのチーム医療にも積極的に参加し他職種との連携強化を図っています。

2020 年 6 月からは、入退院支援センターを開設し、全ての入院予定患者や侵襲的処置前の休薬確認を行っています。



対物業務を効率化し、対人業務を推進していく目的で、2022 年 11 月に、散薬調剤ロボット「DimeRo II」、全自動PTPシート払出装置「robo-pick II」を導入しました。

100 種類強の PTP を「robo-pick II」に、30 種類の散剤を「DimeRo II」に搭載しています。

導入時は、充填などのエラー音対応などで、人が調剤した方が速いのではと思っていましたが、カセットへの薬剤充填はバーコードでチェックすることができ、スピードは思っていたよりも速く、そして何よりも、PTP シートでの計数調剤・散剤秤量を確実にしてくれます。調剤ロボット導入により、調剤業務が効率的に行えることを期待しています。

2022 年は、二次性骨折予防継続管理料算定の開始となり、2023 年 1 月からは、術後疼痛管理チームが立ち上がります。チーム医療に薬剤師が積極的に参加できるよう、調剤ロボットを最大限に利用していきたいと思います。



大阪刀根山医療センターの「生命を大切にし、人権を尊重し、社会から信頼される最良、最適の医療をめざす」をモットーに医療を担う一員として、薬剤部全員で日々業務に取り組んでいます。

(文責：片岡 綾子)

## 2023 年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告

奈良医療センター 細田 敦規

2023 年度近畿国立病院薬剤師会総会が 2023 年 1 月 14 日(土)に大阪市中央公会堂で開催された(ハイブリッド開催)。山下副会長の開会の辞より総会が開始となり、本田会長と河合薬事専門職より挨拶をいただいた。議長として松井副薬剤部長が選出され、2022 年度事業報告、会計報告および会計監査報告があり、全て承認された。

続いて 2023 年度事業計画案および予算案について審議され、全て承認された。最後に、永井副会長の閉会の辞をもって総会が終了した。

日時 :2023 年 1 月 14 日(土) 13:00~14:40  
開催場所 :大阪市中央公会堂(ハイブリッド開催)  
出席者 :出席者 210 名(現地:102 名、 Web:108 名)  
委任者 91 名(会員数 324 名)  
会則 12 条 5 項に従い、会員過半数出席により  
総会が成立  
司会 :山下副会長(大阪医療センター)  
開会の辞 :山下副会長(大阪医療センター)  
議長 :松井副薬剤部長(兵庫中央病院)  
閉会の辞 :永井副会長(兵庫中央病院)



### 1. 報告事項

#### (1)2022 年度事業報告

##### ①事業報告

各担当理事、各委員長または副委員長より資料の通り報告がなされた。

- ・総務 辰己総務担当理事(神戸医療センター)
- ・企画 中野企画担当理事(国立循環器病研究センター)
- ・広報 別府広報担当理事(奈良医療センター)
- ・臨床研究委員会 古川委員長(敦賀医療センター)
- ・治験委員会 田邨委員長(宇多野病院)
- ・医薬品情報委員会 田路委員長(大阪南医療センター)



- ・がん・緩和・精神委員会 長谷川副委員長(大阪医療センター)
- ・循環器委員会 小田委員長(京都医療センター)
- ・糖尿病委員会 木原委員長(南和歌山医療センター)
- ・栄養・褥瘡委員会 村津委員長(大阪医療センター)

## ②地区会報告

各地区理事より資料の通り報告がなされた。

- ・京都北部・福井地区 根上地区理事(舞鶴医療センター)
- ・京都南部・滋賀地区 澤村地区理事(東近江医療センター)
- ・兵庫南部地区 岩切地区理事(神戸医療センター)
- ・大阪北部・兵庫東部地区 小畑地区理事(国立循環器病研究センター)
- ・大阪南部地区 飯沼地区理事(大阪医療センター)
- ・奈良地区 細田地区理事(奈良医療センター)
- ・和歌山地区 坂地区理事(南和歌山医療センター)

## (2)2022 年度会計報告

丸山経理担当理事(京都医療センター)より、資料の通り報告がなされた。

## (3)2022 年度会計監査

福田監査役(姫路医療センター)より、2022 年 11 月 25 日に会計監査が実施され、適正かつ正確であったとの報告がなされた。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

## 2. 審議事項

### (1)2023 年度事業計画案

各担当理事、各委員長または副委員長より資料の通り説明がなされた。

- ・総務 辰己総務担当理事(神戸医療センター)
- ・企画 中野企画担当理事(国立循環器病研究センター)
- ・広報 別府広報担当理事(奈良医療センター)
- ・臨床研究委員会 古川委員長(敦賀医療センター)
- ・治験委員会 田邨委員長(宇多野病院)
- ・医薬品情報委員会 田路委員長(大阪南医療センター)

- ・がん・緩和・精神委員会 長谷川副委員長(大阪医療センター)
- ・循環器委員会 小田委員長(京都医療センター)
- ・糖尿病委員会 木原委員長(南和歌山医療センター)
- ・栄養・褥瘡委員会 村津委員長(大阪医療センター)

## (2)2023 年度会計報告

丸山経理担当理事より、資料の通り説明がなされた。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

## 3. 近畿国立病院生涯教育センター事業報告

山下副理事長より、2022 年度および 2023 年度の研修会開催概要について報告がなされた。

以上



## 近畿国立病院薬剤師会学術講演会に参加して

南和歌山医療センター 上田 浩人

2023年1月14日に開催された近畿国立病院薬剤師会学術講演会についてご報告させていただきます。1つ目の演題として、大阪南医療センター薬剤部 佐々木祐太先生から「大阪南医療センターにおける外来がん化学療法業務と介入事例」についてご講演いただきました。当院も外来において化学療法の新規導入時の指導及び継続患者に対する連携充実加算の算定を行っております。その中でも、免疫関連有害事象(以下、irAE)は多種多様な症状があり、早期発見が重要と考えます。今回の講演で、患者自身に irAE の症状に関するチェックシートを使用し患者自ら症状の有無をチェック、それを薬剤師が確認し診療へフィードバックされていることに患者理解度の底上げを考慮した指導やツールが非常に有用だと感じました。

2つ目の演題として、大阪医療センター薬剤部 畑裕基先生から「病院薬剤師による Web ミーティングツールを用いた内服抗がん剤患者に対する薬学的介入」について、ご講演いただきました。現状の診療報酬では、がん患者指導管理料への取得が難しくなっていることや連携充実加算では内服抗がん剤単独では対象外であることから、今後化学療法に関する薬剤師の介入及び加算取得の方法に創意工夫が必要であることを実感いたしました。また、海外の経口抗がん剤に対する薬剤師の介入の重要性を検討した AMBORA 試験を示していただきました。この試験では、薬剤師による介入によって副作用や医療ミスの減少が示されており、薬剤師が介入することに背中を押してもらった気がいたしました。そして、大阪医療センターでは限られた時間での薬剤師介入を検討し、Web 面談による外来指導の実施を行われていました。当院が位置する紀南地域は医療圏が広域かつ人口当たりの薬剤師数も少ない地域であり、この取り組みの重要性和効率性を実感し今後取り組んでいきたい課題の1つと痛感いたしました。

特別講演として、兵庫県立がんセンター津田政広先生から、「食道癌・胃癌最新治療における現状と課題」についてご講演いただきました。食道癌・胃癌におけるガイドラインの改訂について、症例を交えて非常にわかりやすくご説明いただきました。特に、免疫チェックポイント阻害薬の台頭が印象的で、ご提示いただいた症例の治療経過に驚きました。今後、食道癌・胃癌に対する化学療法に免疫チェックポイント阻害薬が加わることでますます irAE を発症した患者母数が増えることに危機感を覚え、早期発見によるマネジメントが非常に重要と感じました。

最後に、質疑応答において津田政広先生から薬剤師には副作用の早期発見への貢献やメリハリをもった指導をお願いしたいというお話をいただき身が引き締まる思いでした。

## 2022 年度近畿国立病院薬剤師会シンポジウム参加報告

神戸医療センター 高橋 弘季

2022 年 11 月 12 日開催のシンポジウムに参加しました。2019 年から続くコロナウイルスの影響もあり Web での開催となり、シンポジウム関係者の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

今回のシンポジウムでは癌・緩和、循環器、感染、糖尿病、栄養・褥瘡も 5 領域において事例検討を行い、1 領域 30 分かけて薬剤師の関わりや設問内容の是非について、ディスカッションを行いました。最後に症例全体の講評と課題に対する解説を行い、参加者がシンポジウムで得られた情報や知識の共有を行いました。

循環器領域では、自身が司会を務めることとなり発言するだけでなく、他者の意見もまとめながらディスカッションを導いていくことの大切さも学べたように感じています。

事前に渡された事例検討をしっかりと予習してきたつもりでしたが、ディスカッションを通じて新しい発見や考え方など自分の考えもしなかったことが経験することができたのですごく有意義な時間を過ごせたと思います。

2019 年に対面で行われたシンポジウムに参加した経験からしてみれば対面ではなく Web での開催というのは少し寂しい気もしましたが、Web での参加も対面で行うのと変わらないクオリティで経験を積むことができたと思います。

また、事例検討の内容もすべての設問において考えさせられるような問題が多くありましたが、後から見直してみるとガイドラインや添付文書をしっかりと読み込んでいれば難しくなかったように感じました。5 領域の事例検討は実際の臨床現場においても非常に役に立つものであったと思います。

今回出席できなかった薬剤師のためにも、今回のシンポジウムで得られた知識を共有するためにも院内で勉強会を開くとシンポジウムの意味合いが尚更深まるのではないかと考えています。

私の個人的な感想ですが、今回のシンポジウムにおいて若手かつチーム医療に属している薬剤師は積極的に出席して知識を向上させる良い機会だと思いますので全体的に、出席者が少なく残念に思いました。

今回のシンポジウムを通して、チーム医療等で頑張っている薬剤師が 1-2 年目の薬剤師の教育に繋がれば良いのではないかと思いました。

## 趣味のページ

京都医療センター 佐々木 陽子

奈良医療センター 佐竹 美優先生よりバトンを受け継ぎました、京都医療センターの佐々木陽子と申します。佐竹先生とは同期であります。入局してからなかなかコロナが落ち着かず、入局式以来お会いできておりません。またお会いできることを楽しみにしております。

趣味のページを書かせていただくにあたり、自分の趣味を振り返ると、ライブ鑑賞、食べ歩き、ゴルフ、スノーボード、キャンプなどたくさん趣味があり、何を題材にするのか迷いました。しかしながら最近ではコロナ禍ということもあり、ライブや食べ歩きなどにはなかなか行けません。今回はこのご時世でも楽しめる、キャンプについて書かせていただこうと思います。

この数年で、密を避けて楽しむことのできるキャンプにはまった方も多いのではないのでしょうか。私もそのうちのひとりです。最初はライブや食べ歩きの代替案としてはじめたキャンプですが、今ではすっかり虜です。準備もめんどくさい、後片付けもめんどくさい。それに加えて設備も整ってない。家で過ごすほうが何倍も快適なのでは？ そう思われる方もたくさんいらっしゃると思います。私もキャンプを始める前はそう思っていました。なのに、なぜはまってしまったのか。この機会に考えてみました。結論、その不快適さがいいのです。日常では味わうことのできない、不快適さや不自由さを楽しむことができるのです。ゆっくりするだけでも、場所を整え、椅子を組み立て、いつもの何倍もの手間をかけることで、何倍もの喜びを感じることができるのです。そしてもう一つの理由はキャンプギアのかっこよさです。左の写真



にも写っていますが、お皿やコップの無骨さがなんともかっこよくないのでしょうか。キャンプギアへの出費の多さが最近の悩みでもあります…。遠出が可能になれば、色んなキャンプ場に行きたいと思っています。おすすめのキャンプ場がありましたら、ぜひ教えていただけますと幸いです。つたない文章でしたが、ここまでご拝読いただきありがとうございます。

次のバトンは神戸医療センター 植村 新先生にお渡しいたします。植村先生とは大学の同級生で、今でも親しくさせていただいております。よろしく願いいたします。

## 編集後記

- ♣ あけましておめでとうございます。1月に入り寒さが一段と厳しくなってきました。With コロナ が日常となり、マスクを外して交流できる日を待つばかりです。
- ♣ 先生方はワールドカップをご覧になりましたでしょうか。残念ながら日本はベスト 16 で敗退となってしまいましたが、「三苦選手の一ミリ」には日本人選手の技術力の高さ、粘り強さが感じられましたね。
- ♣ 年度末に向けて慌ただしい毎日が続くと思いますが、体調に気を付けながら目標に向かってラストスパートをかけていきましょう。
- ♣ 今回もご執筆頂いた先生方、誠にありがとうございました。広報委員に要望がありましたらお気軽にお声がけいただければと思います。

(K.S.)

近畿国立病院薬剤師会会誌	第七十三号 令和五年一月発行
発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局 (独立行政法人国立病院機構神戸医療センター薬剤部内)	神戸市須磨区西落合 3-1-1
発行人 会長 本田 富得(神戸医療)	
編集 広報担当理事 別府 博仁(奈良医療)	
広報委員 壺阪 直子(兵庫中央)	
細田 敦規(奈良医療)	
野田 拓誠(舞鶴医療)	
清水 宏太郎(敦賀医療)	